

# 強さと希望に手をのばして

埼玉県

解脱錬心館

中学3年 田中詩織

「今、君達は試されている。」

新型コロナウイルスという脅威にさらされ、錬成会も大会も軒並み中止という判断が下される中、稽古すらも行えるかどうか危ぶまれていた二月。「これからはガマンの時期だ。しかし、これはチャンスだ。君達は試されている。今までの失敗や経験。そして、その度学んできたことともう一度向き合い、自分を見つめ直す機会だ。これは、人として強くなるチャンスだ。」先生は、そう私達におっしゃいました。

そして、自粛期間に入り、緊急事態宣言が出されると、稽古は停止となり道場も休館となってしまいました。毎日、自宅周辺を走り込み、素振りになわとび、筋力トレーニングで体をきたえる日々。稽古がいつ再開されるか分からない不安の中でも、今出来ることを全力で、自分に克つことを考え続けました。それでも、仲間にはやく会いたい。みんなで顔をあわせて稽古がしたい。そんな想いは、日増しに高まっていきました。その想いが強くなっていくにつれ、私はいままでの生活が、あの日常が、どれだけ幸せなものだったのか、尊いものだったのかを痛感していました。毎日朝早くから夜遅くまで稽古や勉強に励み、週末は各地の錬成会や大会に連れて行っていただいていた日々。私は、かけがえのない日常に改めて気づき、それは、あたりまえにあるものではないのだと知りました。

少しずつ、少しずつ。稽古再開に向けての準備がはじまり、道場に集まって一時間程でのトレーニングが出来るようになりました。ある日、トレーニングが始まる前に、私達は先生のもとに集合をしました。

「非常に残念ですが、今年の夏の全国大会は中止になりました。」

集まった私達に、先生はそう告げられました。少し前のように、稽古も何もできなかった頃に比べれば、少しずつだけど状況は好転している。そう思っていた私は、まさか全国大会が中止になるとは思ってもいませんでした。中学三年生。最後の夏の全国大会。その大きな目標は、稽古ができなくなっても、他の試合がすべてなくなっても、一度もゆらぐことなく私の心の中にあり続けていたのです。その衝撃は、突如、心の一部が消失したかのようでした。一瞬で、悔しさや苦しさが私におしよせました。「どうして……。どうして！」そん

な気持ちをすぐに受け止めることができず、私の気持ちは、沈んでいました。ふと、私の心に浮かんだのは、「試されている。」という先生の言葉でした。その言葉に私は、はっとしました。「私は今、試されているのだ。」と。私はここで、くじけてはいけません。逃げ出してはいけません。大会は、なくなってしまったけれど、それでも必ず明日は来る。今は、つらく悲しくても、明日への希望と進み出す原動力を絶やしてはいけません。ならば私は、出来ることを精一杯、今しか出来ないことを全力でやっつけていこうと思いました。きっと、そうやって一日一日を過ごし、積み上げていくことができたなら、私はこの悲しみに打ち勝ち、強くなれるのではないかと感じたからです。

そうして私は、不安になったり、苦しくなったりするときも、決してあきらめず絶望せず、一日一日を大切に過ごし、少しずつ希望をつかめるようになりました。また、その日々の積み重ねは、私の心と体をだんだんと強くしてくれているように感じました。これからも、様々な局面で、様々な問題や壁にぶつかることがあるかもしれませんが。そんな時でも、「試されている。」という先生の言葉、希望をもって、出来ることを精一杯、全力で取り組む日々の大切さを忘れず、乗り越えていきたいと思います。そうやって、強くなっていける人に私はなりたいと思います。